

第 4 8 回（令和元年度）全国豆類経営改善共励会 農林水産大臣賞受賞者 概 要

大豆 集団の部

農事組合法人 強首ファーム（秋田県大仙市）

大豆作付面積	21.5ha				
品 種	リュウホウ	単 収	287kg/10a	上位等級比率	59.0%
				労働時間	4.0hr/10a

【経営上の特色】

○大豆作への取組

平成 19 年度の基盤整備事業を契機に集団で大豆生産を始め、平成 21 年 4 月の法人設立後に面積を拡大し地域に定着。

大豆は水稲部門やその他作物に比べて単位面積当たり所得が高く、大豆作導入が農業経営の安定化に大きく貢献。

○ブロックローテーションの確立

1 ha 区画に整理されたほ場を団地化し、ブロックローテーションを実施しながら計画的な栽培ができています。大豆作 3 年を目処として、水稲とブロックローテーションを行い、双方で安定生産を実践。

【栽培技術上の特色】

○西仙北強首地区は細粒グライ土の水田地帯であり、土性は強粘質で排水性が悪いため、田畑転換が難しく、大豆の収量性が低い地域であった。そのため、基盤整備による暗渠排水の設置と大規模連坦団地により、ほ場の地下水位の低下を図り、さらに、毎年、弾丸暗渠を施工し透水性を高め湿害回避に努めている。

○耕起から播種、除草、中耕・培土、病虫害防除、収穫まですべて機械化一貫体系としている。

○トレッド可変式トラクタとディスク式中耕培土機の導入により、土壌水分が比較的高い場合でも作業速度を速めることが可能となり、適期を逃さない作業ができ、作業時間の短縮につながっている。その結果、計画的な中耕・培土作業が可能となり、大豆の生育安定及び雑草が生えにくい環境が確立されている。

○生育量に応じた培土期追肥や開花期後の葉面散布追肥の実施により、生育が不安定な初作や連作 3 年目のほ場でも生育量の確保ができ、収量の確保に繋がっている。

○基本技術を励行し多収・高品質な生産に努め、単収は 287kg/10a（R 元年産）と秋田県平均（162kg/10a）を大幅に上回っている。

【販売・消費拡大への取組】

○豆腐や納豆の加工適性に優れる県奨励品種「リュウホウ」の大ロット安定供給は、実需の信頼が高く確実な需要が見込まれるため、系統出荷を行っている。

農事組合法人強首ファーム（秋田県大仙市）



農事組合法人強首ファームのみなさん



追肥作業の様子